

令和5年度 第15回部長会議 会議記録（要旨）

開催日時：令和6年3月18日（月） 13時00分から15時00分まで

開催場所：A203-204会議室

出席者：佐藤市長、高田副市長、熊谷教育長、原田総務部長、林企画部長、小倉リニア推進部長、牧島リニア駅周辺整備担当参事、橋本市民協働環境部長、田中ゼロカーボンシティ担当参事、林健康福祉部長、高山こども・子育て担当参事、清水産業経済部長、今産業経済部参事、井田建設部長、佐藤建設部参事、岡本危機管理部長、佐々木上下水道局長、齊藤市立病院事務局長、北原会計管理者、秦野教育次長、和泉議会事務局長、佐々木財政課長、小室秘書課長、小椋南信州広域連合事務局次長、澤柳企画課長

会議内容

1 理事者あいさつ

＜市長＞

- ・市議会一般質問への対応について感謝する。一般質問や委員会審議を通じて、市民の皆さんにいろいろなことを説明する機会でもあるため、引き続きしっかりと一般質問や委員会審議に対応しなければいけない。
- ・今週末で議会が終わり、予算が成立し、その1週間後には新年度を迎える。特に退職や役職が変わる方はもちろん、年度が切り替わる際の引き継ぎをしっかりとお願いしたい。今から新年度に向けた準備をすることはとても大事なことであり、部課長の皆さんには、異動の有無に関わらずしっかりと引き継ぎをしてほしいと、各部局において伝えていただきたい。
- ・人事内示が示される。人事異動は、予算以上に難しい面があり、必ずしも全ての皆さんが納得するものではない。その人本人のこともあるが、周辺の環境を考慮して決めていくものであり、受け止め方もそれぞれに違う。
- ・部下の皆さんの中には、不満や不安を持つ方がいると思う。部課長において、どういうところが不満なのか、納得できないのかを聞き取りしていただき、フィードバックをしていただけるとありがたい。
- ・部下の皆さんの中に不安な顔している方がいれば、その部署に配置をすることは期待の表れであり、周りもサポートするため、一緒に頑張ろうと伝えてもらいたい。
- ・今年度1年間、部長会のメンバーの皆さんには本当に市政の中心になって支えていただいたことを改めて感謝を申し上げる。

＜副市長＞

- ・産業建設委員会の分科会において、人件費の超過勤務手当が話題になった。超過勤務手当において相当額が補正予算で必要になるということは、それだけ職員の負担があるということ。確かに人件費は人事課が補正予算を出しているが、勤務命令を産業経済部で出しているのであれば、職員がどういう働き方をしているかは、産業経済部が把握していることである。そういうことの説明が補正予算とは別にあってもよかった。
- ・人事異動が出される。職員の皆さんと話をしていただき、職員の働いている状況をよく把握し、活動しやすく働きやすい職場を作っていくことは上司の役割である。年度始めに向けて、注意をしていただきたい。

＜教育長＞

- ・全ての学校で卒業証書授与式が終わった。普段と違う動きをすることから、怪我や事故が立て続けに発生した。良い卒業式ができていないなか、そんなことがあってはいけないと気をつけている。
- ・コロナ禍が明けたことで、地域の学校運営協議会等の皆さんを呼び卒業証書授与式を開催する場合もある。ただ、市議会議員を来賓として呼ぶ場合と呼ばない場合とが学校によってあり、そういうこともこれから考えていかなければいけない。
- ・教員の世界では人事異動は研修だと位置づけている。その学校に行くのは、期待される役割や任務がある。そのことを踏まえて人事異動を研修として理解し、活躍を期待するという意味である。実際には、それぞれうまくいく場合や課題が出てくる場合もあるが、大事な節目になる。こういうときに刷新されて新しい方向が出てくる可能性も十分にあるため、期待をしているところである。

- ・退職される方、役職定年される方は本当にお疲れ様でした。校長も役職定年になるが、教員が足りていないため、ほとんどが教職としてまた現場に立つような状況である。

2 協議事項

(1) いいだ未来デザイン2028後期計画策定の考え方(案)について

◇趣旨

- ・いいだ未来デザイン2028後期計画策定の考え方(案)について協議する。

◇意見

【議会議務局長】

- ・考慮すべき環境の変化について、現在の財政状況を踏まえて、新たに「健全財政の維持」を追記し、市民と議会に共有した方が良い。限られた財源の中で、これからは全ての行政需要に対応していくことは難しい。「あれもこれも」から「あれかこれか」という後期基本計画策定になるのは避けられない。今後は限られたリソースの中で、市民と議会と市の3者が、全市的な課題に向き合い、解決のための知恵を出し合う。そういった新しい市政運営が求められているのではないかと。
- ・「SDG s」、「持続可能性」を否定するのではなく、それらを前提としながらも、現在の飯田市の状況を直視したほうが良い。長期財政見通しを踏まえた、人口ビジョンを達成するための戦略の見直しも必要となる。自治基本条例の学び直しも含めて原点に立ち返り、ムトスの精神と将来設計をする機会と捉えた方が良い。そうすると「持続可能」よりも、「自立(律)」した地域創造というのを前面に出したほうが良い。「SDG s」、「持続可能」はどこでもやっている。後期4年間で飯田市はどうしていくかを考えれば、「自立(律)」という言葉の方がふさわしいのではないかと。
- ・自立(律)した地域創造というのは、自立(律)した地域経営ということである。目指すべきは、「経済の自立(律)」、「エネルギーの自立(律)」、「食料の自立(律)」、「福祉の自立(律)」、「教育の自立(律)」、全ての分野に取り込んで具体的に組み込んでいく。このことが新たな礎を築くことにつながっていく。

【企画部長】

- ・「持続可能性」を「飯田らしい持続可能性」と捉えて、表現していかなければいけないと思っている。検討する視点やしっかり持っておくべき部分である。

【総務部長】

- ・SDG sをベースにすることは、否定しない。「SDG s」は、「持続可能性」に基づいた話であり、SDG sをベースにするのであれば、「自立(律)」よりも分かりやすい。
- ・計画期間の終期を明記していない意図はなにか。

【市長】

- ・2028がリニア1年後のまちの姿だとすると、そのことにあまり意味がなくなってしまう。どうするかを考える中で、SDG sをベースに考えることになると思うと、SDG sに合わせて2030年という目標年度を置くことも考えられる。2028年、2030年の両方があり得るため、含みを持たせることで、そこも含めて市民の皆さんと議論をしていきたい。

【総務部長】

- ・総合計画には各分野のいろいろな計画がぶら下がっており、それらは連動しているため、仮に2030年となった際には、全部を見直す必要が出てくる。それぞれの部署で見直すという業務量が膨大になる。

【リニア推進部長】

- ・現在リニア開通を見据えた「まちの設計図」を作成しているところである。その考え方は、基本構想、基本計画と整合し、両面からあるべきまちの姿を示していく必要がある。
- ・中期計画では想定していない社会情勢の変化もあり、これらに対応するため、少し短いスパンで方向性を確認しながら進めていくとする計画を策定する必要があるのではないかと。

【リニア駅周辺整備担当参事】

- ・様々な新しい視点が加わってきている。SDG sの考え方をベースにそれらを計画に反映させながら、整理し、飯田市版Goalsに反映していくものと考えられる。そういうことであれば、2028年や2030年の短いスパンではなく、次の基本構想に位置づけていく方が良いのではないかと。
- ・今の基本構想の後期計画において、SDG sの考え方を取り入れ、全部切り替えていくよりも、前期中期の枠組みについてしっかり整理し、2年～3年間程でそれを取りまとめ、次期基本構想を2026年から4年～8年といった期間で策定するほうが良い。

【市長】

- ・後期計画を2年程度にし、次期総合計画を作り始めるということか。

【リニア推進部長】

- ・リニア開業時期がその間に分かってくるのではないかと。

【リニア駅周辺整備担当参事】

- これだけ新しい要素があると、それらを後期計画で見直すことは厳しい。新しい視点をベースにするのであれば、枠組みもかなり変わってくるため、しっかりと整理してスタートした方が良い。

【市長】

- 次期総合計画をいつから作り始めるか。後期計画が4年とすれば2年後ぐらいに始めなければいけない。2029年スタートの計画だとすると、遅くとも2027年から作り始めなければいけない。

【企画部長】

- 成果をどのように設定するか。短い期間だとすると、そこで何を出していくか、どう設定するかは課題はある。

【議会事務局長】

- キーワードとして「SDG s」となっているが、これは既に自治体の標準装備になっている。「SDG s」の手法を否定するわけではなく、必要不可欠としたうえで、今後の4年間どうしていくのが問題。キーワードは「SDG s」ではないと思う。

【市長】

- 中学生を例にすると、いいだ未来デザインについては今まで考えたこともないかもしれないが、SDG sは中学校のいろいろな取組に取り入れられている。飯田版G o a l sのようなもので小学生や中学生にも議論してもらい、飯田版SDG sを作るとどうなるかを考えたかどうか。「自立（律）」や「健全財政」では、大人の話になってしまう。SDG sであれば子どもも巻き込みながら考えていくことができる。

【議会事務局長】

- 手法としては理解する。しかし、後期計画から透けて見えてくるような哲学が必要だと思う。それは、「SDG s」ではなく、「自立（律）」ではないか。

【市長】

- それらは二律背反するものではないと思う。

【産業経済部長】

- 方向性を決めてみんなで頑張ろうということ。日程を見ると、春先から忙しい。産業経済部においては「地域活性化プログラム」という計画を作っていることから、それとの連動性などを整理する必要もある。計画にはいろいろな考え方があり、しっかり議論して方向性を定めた後、それが上手く機能することが大切。計画を策定しても誰も知らないこともあるため、そういったことがないようにしていく必要もある。

【企画部長】

- リニアを含めて不透明感があり、どういうまちづくりをしていくのが非常に見えにくい。そこはしっかり示せるような形にし、市民に分かりやすくしていきたい。
- 今回はこういうような形でとりあえず一歩踏み出してスタートしていく。本日いただいた意見を反映させながら、基本的な骨格を作っていく。来年度入ったら早々にはなるが、計画期間に関しても相談を重ねていきたい。

【市長】

- 今議会中に議会へ何か示すのか。

【企画部長】

- 議会中ではなく、後期計画自体の審議は予算決算委員会で行うことになるため、その準備会と意見交換をしながら、議会の方は整理をしていく。行政評価の関係は、令和5年度単体での評価ではなく、中期計画3年間の評価を合わせてやっていくことで考えていきたい。

◇協議結果

- 提案のとおり了承する。

(2) 新しい文化会館の整備に関する基本構想

◇趣旨

- 新しい文化会館の整備に関する基本構想について決定する。

◇意見

【市長】

- パブリックコメントは、特定の人が出している意見なのか、それとも大勢の人からの意見か。

【文化会館館長】

- 4人の方からの意見となっている。

【産業経済部参事】

- パブリックコメントの期間が30日以内となっているが、問題はないか。

【文化会館館長】

- ・飯田市では、概ね30日ということになっている。

◇協議結果

- ・提案のとおり了承する。

3 報告事項

(1) 公用車の事故状況と防止対策及び飲酒運転根絶の取組について

◇趣旨

- ・公用車の事故状況と防止対策及び飲酒運転根絶の取組について報告する。

4 令和6年度飯田市議会第1回定例会の反省について

【企画部長】

- ・Wi-Fi工事で、指示誤りにより議会の放送用チャンネルを削除してしまうという手違いがあったため、総務委員会においてYouTube配信ができなかった。課長等の入室するタイミングが分からなくなってしまい、ご迷惑をおかけした。

【議会事務局長】

- ・予算決算委員会の全体会や一般質問での議員の発言において、議長から注意をいただいている事案がある。会派内、議員同士の相互評価や自己チェックをやっていく必要があると感じている。

【総務部長】

- ・分科会の補足説明者として課長補佐や係長が委員会室に入室しているが、入室者が多いと感じている。私が課長になった頃は、委員会の説明や予算の説明などについては、とにかく課長が全力を尽くして勉強し、説明し切るものと教わった。私は部下を委員会室に同席することは一切しなかった。そういった気持ちを持って委員会や分科会に臨むようにしていただきたい。しっかりとした意志を持って議会対応をすべき。

【こども・子育て担当参事】

- ・補足説明者が多いことは気になっている。なぜ多いのかというと、説明するときにシステムで通知を飛ばさないといけない。その通知作業をする人が必要であり、連れて来ざるを得ない現状がある。担当者に通知をさせようとする、多くなってしまうため、部局単位で1人にやってもらうようにすると良いのかもしれない。

【市長】

- ・実質的に補足説明者は機能しているのか。機能しているのであれば、それはそれで1つの方法だと思う。総務部長の発言どおり、説明し切る覚悟は必要である。
- ・国保会計の予算説明では、項目だけを説明していたが、これでは分からない。総額と増減ぐらいは説明すべきだったのではないか。

【副市長】

- ・昔は、国保会計の当初予算はそもそも暫定だという共通理解があり、今議会では項目だけ説明し、6月で本算定という流れだった。おそらく当時のままの説明になっている。今はもう予算がほぼ確定していることから、もう少し丁寧に説明すべきである。

【議会事務局長】

- ・事務事業進行管理表の説明について、課題認識を交えながら説明していただくなど説明する側で気を付けていただくと、建設的な意見が出やすい。

【企画部長】

- ・いくつかの事業で、事業の組立や要点について説明しきれていない事例があった。企画部においても、要点を押さえた説明になっていなかったという反省がある。事前に想定問答などの準備をしっかりとしておくことが大事であり、市民にわかりやすい説明という視点をもつ必要がある。

【産業経済部参事】

- ・充電ステーションについて、設置する工事自体は昨年度の議会で上程しており、今年度は充電器設置条例について上程したが、そもそもの話になってしまい、今回上程していることと全然違う質問をやり取りすることになった。上程している内容に沿って質問してもらいたい。

【産業経済部長】

- ・補足すると、昨年の委員と今年の委員では委員構成が異なるため、記憶が繋がっていない。苦しい思いをした。

【企画部長】

- ・状況に応じて、補足説明資料を活用していただく方法もある。

【教育次長】

- ・一般質問において、県の高校の魅力化についての質問は、市議会で一般質問されても答えられないというやり取りの中で、最後に市の教育委員会は答えてくれなかったとの発言があり、非常に苦しかった。
- ・通告後、学校のあり方について別に質問したくなったという話をギリギリになっていただいた。今後早くから一般質問の通告があると、非常に大変だと思う。

5 その他、連絡事項

内示及び辞令交付の日程等について（総務部）

4 閉 会